

障害者行動管理特論

Advanced Course of Behavior Management of Special Needs Patient

キーワード

- ① 神経発達障害
- ② 行動調整
- ③ 循環動態
- ④ 障害者福祉制度
- ⑤ 地域包括支援システム

授業概要

スペシャルニーズとしての健康支援、対人支援の方法の基礎と臨床に関する最新の研究成果に触れることにより、EBMに基づく医療の提供について討議し、自らの診療や研究に反映させることを目的とする。

知的障害、自閉症スペクトラム障害などの神経発達障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー、てんかんなどの神経疾患患者の歯科での対応（処置内容、行動調整）が呼吸や循環動態および地域医療、包括医療における口腔保健支援システムについて最新の研究に関する英語論文を抄読し、プレゼンテーションを行い討議する。

授業科目の学修目標

神経発達障害や神経疾患患者を中心としたスペシャルニーズのある患者における歯科処置や行動調整が呼吸や循環動態に及ぼす影響について最新の研究手法とエビデンスを認識し、歯科医療を安全かつ効果的に提供するための最新の知識と技術を身につける。障害者の保健医療・福祉制度と地域医療、包括医療における口腔保健支援システムについて認識する。

授業計画

- ① スペシャルニーズのある患者の行動調整法 10コマ 森本佳成
- ② スペシャルニーズのある患者における歯科処置・行動調整法と循環動態 10コマ 森本佳成
- ③ 障害者の保健医療・福祉制度 4コマ 森本佳成
- ④ 地域包括支援システムにおける歯科保健医療 6コマ 森本佳成

教科書および参考書

- ① 日本障害者歯科学会 編：スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科（第2版），医歯薬出版，2017
- ② 吉田和市 編：麻酔・生体管理学（第2版），学建書院，2016

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

障害・疾患の定義や概要（疫学、概念、病態、合併症）および口腔の特徴に関する基本的知識を必要とする。医療倫理やスペシャルニーズに関する基本的知識を身に付けていること。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① スペシャルニーズのある患者の病態と臨床症状について論理的に説明できる。
- ② スペシャルニーズのある患者における安全かつ効果的な行動調整について説明できる。
- ③ 障害者の保健医療・福祉制度について説明できる。
- ④ 地域包括支援システムにおける歯科保健医療の役割について説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	0%	32%	8%	30%	0%

評価の要点

- ・試験（多肢選択式客観試験）は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・成果発表は、①～④の各項目について成果を発表する。8%×4回=32%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い、知識の理解度を判定する。1%×30回=30%
- ・ポートフォリオにより技能、態度を評価する。積極的、意欲的な態度に関しては加点する。2%×4回=8%

理想的な達成レベルの目安

障害者行動管理特論の理想的な達成レベルは70%以上とする。